山弓連
1〜2
平1.8.25

ミニ国体で『少女』が予選突破

代表決定戦（競射）で栃木を破る

八月二〇日栃木県鹿沼市で行なわれたミニ国体で少年女子チームがみごとに予選突破して、本国体に出場することができまった。

ミニ国体の戦績次の通り。

種別	都県	近的			遠的			総合	
		的中	順位	得点	的中	順位	得点	得点	順
少年男子	埼玉	21	2	7	20	1	8	15	①
	群馬	15	4	5	17	4	5	10	4
	東京	11	8	1	10	8	1	2	8
	千葉	15	5	4	13	6	3	7	7
	山梨	14	6	3	14	5	4	7	6
	栃木	19	3	6	20	2	7	13	②
	神奈川	11	7	2	19	3	6	8	5
	茨城	22	1	8	11	7	2	10	3
少年女子	神奈川	19	1	8	16	4	5	13	①
	山梨	14	2	7	17	3	6	13	②
	千葉	14	5	4	16	5	4	4	6
	群馬	12	7	2	9	7	2	8	7
	栃木	14	3	6	18	2	7	13	3
	茨城	14	4	5	10	6	3	8	5
	東京	9	8	1	9	8	1	2	8
	埼玉	13	6	3	21	1	8	11	4

種別	都県	近的			遠的			総合	
		的中	順位	得点	的中	順位	得点	点	順
成年一部	群馬	13	6	3	17	1	8	11	②
	千葉	14	5	4	11	8	1	5	7
	茨城	11	8	1	11	6	3	4	8
	神奈川	18	2	7	12	5	4	11	3
	栃木	12	7	2	13	2	7	9	5
	山梨	14	4	5	11	7	2	7	6
	埼玉	18	1	8	13	3	6	14	①
	東京	15	3	6	13	4	5	11	4
成年二部	山梨	11	6	3	7	7	2	5	8
	茨城	12	5	4	5	8	1	5	7
	栃木	15	1	8	9	6	3	11	3
	群馬	14	3	6	9	4	5	11	4
	東京	13	4	5	14	2	7	12	②
	埼玉	6	8	1	11	3	6	7	5
	神奈川	14	2	7	16	1	8	15	①
	千葉	8	7	2	9	5	4	6	6

少年女子は近的順位決定戦四チームの競射で勝ち、更に、総合順位決定戦では地元栃木との対決で競り勝っての栄冠で、その根性はみごと!!

少年男子、成年女子一、二部はそれぞれ健斗したが強豪ぞろいの関東の壁は厚く、惜しくも予選通過は成らなかった。しかし、強化練習中の的中率からみると、この程度の通過ライン突破は、必ずしも不可能とは思えないので、今後は「練習中の的中率を、本番で如何に維持するか」が一つの課題になりそう。

この結果、第44回国民体育大会（北海道ルベシベ町）には、ストレート参加の成年男子チームとミニ国体突破の少年女子チームの二チームが出場することになった。両チームの健斗を祈る。

（壮行射会は九月一〇日（日）午前九時・県営弓道場）

若い力

中体連、高体連弓道部の動静

中学総体弓道

七月二八日、参加六校（櫛形中、増穂中、甲府南中、石和中、下吉田中、都留二中）選手一一三名。ここ数年、中学の弓道人口も急速にふえてきている。大会の成績は次の通り。

○男子団体（36射）
一、櫛形中A　21中（7・7・7）
二、石和中A　15中（4・5・6）
三、増穂中B　13中（1・8・4）

○女子団体（36射）
一、櫛形中C　14中（4・3・7）
二、櫛形中A　10中（5・2・3）
三、石和中A　9中（4・3・2）

○個人戦（12射）
男一、大木真太郎（増穂中）　8中
二、山口祥司（櫛形中）　7中
三、入倉修平（〃）　7中
女一、野中愛（〃）　7中
二、村上愛子（〃）　6中
三、藤巻留美（石和中）　4中

上位入賞者は射型もりっぱ。高校生なみの選手も数名見うけられた。

中学生リーダー講習

八月一〜三日、二泊三日の講習会を開催。受講生は六校弓道部のリーダー二〇名。講師は、遠藤侃一、小林武彦両教士。基本姿勢、基本動作から始まって、体配、射技の基本まで、たっぷり三日間の講習で、各人とも見違えるように上達した。

各校顧問の先生も三人程参加して、指導事項などを熱心にメモしていたが、これも今後の各校での指導に役立つものと思われる。惜しむらくは、全校の顧問の先生が参加できなかったこと。

全国中学錬成大会

◆櫛形中が敢斗賞◆

七月三一日東京日本武道館で開催された錬成大会（中学生の全国大会は現在のところ正式には許可されていないので、こういう名称を使っている。）で、櫛形中Aチームが敢斗賞を獲得した。錬成大会だから一位、二位という順位がつけられないので、優秀賞とか敢斗賞という賞を出しているのだが、これはりっぱな上位入賞にあたる。いよいよ山梨の中学生も高校生に続いて、全国上位レベルに近づきつつある。

高校一年生大会

八月二日、参加一七校一三七名。大部分は、四月に初めて弓道というものに接し、実際に的前で練習したのは多分二、三か月しかない者ばかり。しかし、それにしては、なかなかうまい選手が多数いた。この調子で上達していけば、あと二年したらどんなに上手になるかと心強く思うのだが——。

大会成績次の通り。

○男子団体（24射）
一、園芸A　14中
二、身延A　12中
三、身延B　11中

○女子団体
一、巨摩B　9中
二、増穂A　8中
三、巨摩A　8中

○男子個人（8射）
一、青柳（園芸）6
二、笠井（甲工）6
三、長谷川（巨ナ）6

○女子個人
一、大塚（巨ナ）5
二、赤池（増穂）4
三、秋山（巨ナ）4

従来の入賞常連校を追い越して新しい勢力が伸びてきた。相互に競い合い磨き合って、山梨弓道の力の底上げをはかってほしい。

全国高校総体（いわゆるインターハイ）

今年のインターハイは香川県琴平で、八月一〜四日に開催され、山梨からは男子機山工高、女子巨摩高校が代表として出場した。従来の実績から両校とも上位入賞候補と目され、期待をになって参加したが、機山工はその力を十分に発揮することが出来ず、惜しくも予選で敗退した。女子の巨摩高は、予選を通過し、決勝トーナメントまで進んだが一回戦で惜敗し、入賞を逸した。来年に期待したい。

淋しかった伝達講習

本年度中央講習の伝達講習会が、七月三十日に開かれたが、参加者は、講師（四人）を含めて、わずかに一四人というさびしさ。昨年は五〇人近い参加者があってびっくりしたことを思うと、『これはいったいどうしたことだろう？』評議員会あたりで一度議してみる必要がありそう。

なお、本年度は、低段講習会も高段講習会も少人数だった。組織強化の源泉となるべき講習会を盛会にする方途について、ご意見を乞う。

女子大会

◆こちらは一三八名参加◆

七月二三日、高校生九八名、一般女子三〇名参加して盛大に開催。成績次の通り。

（高校生）
一位　小山好美（上野原）8
二位　柳本美和（韮崎）8
三位　大柴千恵（巨ナ）6
四位　高山美香（甲西）6
五位　加賀美みわ（韮崎）5

（一般）
石川美穂　7
上野清子　7
石井里衣　6

高校の部は韮崎高が大健斗。一般の部では、「全日弓連四〇周年大会代表」をかけて、ベテランと新鋭七中どうしの対決となったが、競射三本目で新鋭に凱歌があがった。

各種大会代表選手

■全日本選手権大会（9.27〜10.2）
男子　上条皎
中沢利正
秋山照美
女子　標衣枝
→有段　石川美穂
錬士　宮下貞雄
〃　不動田光煕
教士　河西伊三男

■関東選抜大会（9.3）
有段　深沢勇
土橋享
塩島健二
信田周二
古屋浩元
称号　不動田光煕
宮下貞雄
小尾幸夫
河西伊三男
標興次

■全日弓連四〇周年記念大会（10.14〜15）
会長　中沢利正→

各選手の健斗を祈ります

事務局より

- 「山弓連の歴史を創った人々」の連載を都合により休みました。次号より続けます。
- 県外審査の場合、必ず連盟経由で申請して下さい。直接発送は無効になります。今年二件ありました。
- 審査請求に審査料の入っていないのも二件。事務局をハラハラさせないで。
- 「弓道誌」の購読希望者募集!! 一年分（12冊）三五〇〇円消費税込み。弓道修業に必要な知識、情報が満載。一人一冊とは言わないから、各人一冊是非購読を。